

みやこ市議会だより

羅針盤

らしんばん

2019

令和元年

9月議会

No.58

10月12日に日本に上陸した台風19号は、本市にも大きな被害をもたらしました。発災後、イーストピアみやこにはボランティアセンターが設置され、災害復旧活動の拠点となりました。台風上陸から約1週間が経過した10月20日、同所の創作スタジオでは、雑巾縫いの作業が行われ、多くのボランティアの皆さんが、被災家屋の清掃などで不足しがちな雑巾の製作に取り組みました。市内外から多くの人たちが結集し、被災地域の復旧に尽力しています。

INDEX

議会報告会…3P

9月定例会議…5P

予算特別委員会…7P

決算特別委員会…8P

一般質問…11P

政務活動費の使用状況…18P

議会トピックス・編集後記…19P

みんなのラウンジ…20P



台風 19 号で被災された皆さまへ、お見舞い申し上げます。
復旧にあたって下さった皆さまへ、感謝申し上げます。

10 月 12 日に日本に上陸した大型の台風 19 号は、本市の観測史上最大となる、1 時間あたり 84.5 ミリの雨と激しい風で、本市の交通網や電気・水道といったインフラに甚大な損害を与えました。また、夜通し続いた風雨に加えて、土砂崩れや冠水によっても市民の皆さまの貴重な生命や財産が奪い去られ、日を追って災害の全容が明らかになるにつれて、私たちが失ったものの大きさを痛感しているところです。

まずもって、今回の台風でお亡くなりになった方へのお悔やみと、被災された皆様へ心からお見舞いを申し上げます。

また、使命感を胸に公共交通網やライフラインの復旧にあたって下さった市当局や関係機関、各事業者の皆さま、ボランティアの皆様へ、深く感謝申し上げます。

宮古市議会では発災直後より、各議員が市内各所にて、情報収集や自主的な復旧活動に取り組み、それぞれの判断でなすべきことを行いました。その後、10 月 17 日には、議会運営委員会を開き、市からの情報をもとに被害状況を把握し、今後の市議会での災害対応について協議を行ったところです。

災害復旧まで相応の時間がかかると思われますが、被災された方々の生活が 1 日も早く安定し、安らかな心を取り戻せるよう、市議会は議決機関としての務めを果たしていくことをお約束申し上げます。また、市民の皆さまの声を市政に届けることが議会の役割です。11 月 19 日、20 日、21 日の 3 日間、市内各所で議員との意見交換の場（議会報告会・意見交換会）を設けますので、台風に関連したお困りごと、お気づきの点がある場合は、どうぞ遠慮なく私ども議員にお伝えくださいますよう、お願い申し上げます。

宮古市議会議長 古 舘 章 秀

11月19・20・21日開催

議会報告会で

議員と話そう

市民の皆様には議会の活動を知っていただき、市政へのご意見をお聞きするため、議員が直接地域へうかがう「議会報告会（意見交換会）」を今秋も開催いたします。

※開始時間は、全日程、全会場 午後6時30分

1 班



○11月19日（火） 赤前コミュニティ 消防センター

○11月20日（水） 川井生涯学習センター

○11月21日（木） イーストピアみやこ

【担当議員】

藤原光昭 橋本久夫 木村 誠
鳥居 晋 伊藤 清

4 班



○11月19日（火） 重茂公民館

○11月20日（水） 基幹集落センター（新里）

○11月21日（木） 崎山公民館

【担当議員】

加藤俊郎 佐々木重勝 田中 尚
高橋秀正 坂本悦夫

3 班



○11月19日（火） 小国地域振興センター

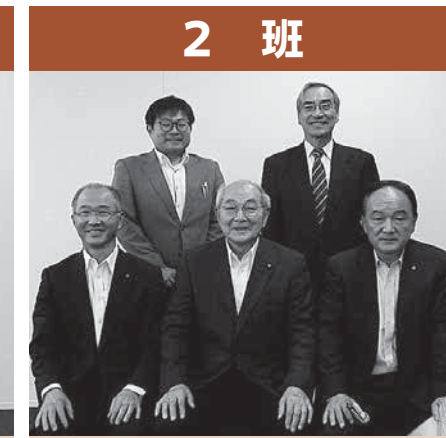
○11月20日（水） 西ヶ丘地区センター

○11月21日（木） 第7分団屯所

【担当議員】

工藤小百合 畠山 茂 西村昭二
熊坂伸子 佐々木清明 落合久三

2 班



○11月19日（火） 八木沢地区センター

○11月20日（水） 田鎖地区総合交流促進センター

○11月21日（木） 三王地区自治会研修センター

【担当議員】

長門孝則 小島直也 竹花邦彦
白石雅一 松本尚美

第13回議会報告会での意見のうち、議会が特に重要と考え、市長に報告した4点の要望への市の回答と、第14回議会報告会での市民の皆さまからの意見をお知らせします。

第13回

要望内容	宮古市回答
JR山田線（宮古盛岡間）の利用しやすいダイヤを実現してほしい	ダイヤ改善について、JRに繰り返し要望している。JRからは「利用状況等を勘案し列車設定をしており、ダイヤの変更は現状では困難な状況」との回答があった。市として、今後更に実効性のある利用促進策を行い、利用者の増加をダイヤ改善に繋げていきたい。
閉伊川水門整備事業に係る市民説明会の開催をしてほしい	現在の進捗状況等について、市民説明会を開催するよう県に対し要請する。
主要地方道重茂半島線の整備をしてほしい	地域住民の生活と産業経済活動を支える重要な路線である主要地方道重茂半島線について、整備計画のない区間についても、引き続き整備改良を推進していただくよう、市町村要望に明記し、県に対して要望していく。
ラジオの難聴地域、携帯電話の不感地域の解消をしてほしい	和井内地区のラジオの視聴環境については、調査のうえ、県と連携して事業者への働きかけを行っていく。 平片・戸塚地区の携帯電話不感地域の解消については、携帯事業者より該当地域の周辺の整備について検討していると伺っている。県と連携を図りながら、整備の実現に向けて取り組んでいく。

※要望、回答の詳細につきましては、市ホームページでご覧いただけます。

第14回

●主な意見の抜粋

☆「若者の定住化・住環境整備・人口減少」について

- ・若者が少ない。若者が多く残る宮古にしてほしい
- ・「孫と一緒に暮らしたい」との言葉があった。子、孫世代が都会に行かなくても宮古でも十分に満足な生活ができる、そんな町になってほしい

☆「旧市役所跡地利用・旧警察署庁舎利用」について

- ・市役所跡地計画は今のままでは行きたい場所ではない
- ・どこにでもある公園ではなく特徴ある公園にしてほしい。市民も観光客もここに来たいと思わせる場所にしてほしい

☆「公共交通」について

- ・免許返納者などに病院等を巡回するバスなどがあればいい
- ・ワンコインでどこでも行けるような交通があればいい

☆「地域コミュニティ」について

- ・地域でできることは地域で
- ・子ども、女性、若者、高齢者、それぞれ意見があるので、市民、地域、家族、議会でもコミュニティが大事と感じた

☆「少子高齢化と子どもの視点からのまちづくり」について

- ・将来は子どものものの、の視点からのまちづくり、公園、遊び場など本気に向き合い実現しなければダメだと思う
- ・子どもたちが外で自由に思い切り活動できる場の充実

☆「老人福祉・医療の充実」について

- ・家族に負担を与えたくないが、入居する施設が少なく何年待ちの現状に将来不安になる
- ・安心して病気を治してもらえる専門医が欲しい

☆「誰もが暮らしやすい優しいまちづくり」について

- ・芸術、文化などの遊び場が子どもにも大人にも必要
- ・「コミュニケーションを取れる環境をつくる」という言葉が心に残った。子どもから大人まで仲良く暮らせるまちになってほしい

☆「企業誘致・若者、女性の職場確保」について

- ・若者の仕事がない。若者が外へ出なくても済む職場、若者が帰ってくる職場がほしい
- ・企業誘致して若者の働ける職場をつくること

☆「観光のまちづくり」について

- ・魚がおいしい。船の音はするが、海や波の顔が見えなくなった
- ・市役所から浄土ヶ浜をつなぐ街の中の風景を想像出来る街づくりが必要

☆「その他の意見」

- ・宮古市のまちづくりはバラバラの感がある
- ・市民が市政に関心を持つことが、まちをよくする一番の方法と思った

☆「今回のワールドカフェについて

- ・市に対して思うことがあっても声が届かない。今回のワールドカフェの継続が必要だと思う
- ・市民の生の声を聞くことが大事

- ・ワールドカフェで年齢に関係なくいろいろなことが話せてよかった。特に若い人たちの考えている事を聞いたことは良かった



令和元年9月定例会議

平成30年度決算を認定
令和元年度補正予算を可決
宮古市議会9月定例会議で可決された主な
条例・議案などの概要をお知らせします。

29の議案を可決

令和元年9月定例会議は、9月11日（水）から10月11日（金）までの31日間の会議日程で行われ、会期中の本会議の日数は6日でした。

今定例会議では、平成30年度の一般会計・特別会計・企業会計の決算計18件を認定したほか、「令和元年度一般会計補正予算」などの補正予算5件、「宮古市保育所条例等の一部を改正する条例」などの条例12件、「宮古市新市建設計画を変更することに関し議決を求めることについて」などのその他の議案11件、諮問1件、意見書1件を可決しました。

一般質問は3日間

一般質問は、9月26日（木）27日（金）30日（月）の3日行われ、12人の議員が登壇し、市政の重要課題について質問等を行いました。

【関連】一般質問の詳細は11ページからの記事をご覧ください。

保育所等副食費給付金を含む補正予算が可決

令和元年度宮古市一般会計予算は、保育所等副食費給付金1、836万円など24億4366万円が追加され、予算総額は392億2714万4千円となり、昨年9月時点の一般会計予

9月の定例会議

9月11日（水）～ 10月11日（金）	
31日間	
決算	18件
補正予算	5件
条例	12件
その他議案	11件
諮問	1件
意見書	1件
一般質問	12人(3日間)

算435億3948万円より、43億1233万6千円減少しています。

可決された主な条例

9月定例会議で可決された条例をお知らせします。

○宮古市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

▼国が定める基準に準じて、特定教育・保育施設との連携要件の緩和や、食事の提供のための費用の取扱いの変更をすることともに、所要の改正を定めた条例です。



令和元年度 一般会計・特別会計の補正予算を可決

財政調整基金積立金、市債管理基金積立金、東日本大震災復興基金積立金、河南高浜線道路整備事業、赤前地区集会施設整備事業など決まる

令和元年度一般会計補正予算は、既に議決している歳入・歳出に、それぞれ24 億4366 万円を追加し、予算総額は392 億2714 万円となります。主な歳入は繰越金19 億5694 万円と繰入金3 億4911 万円、市債6810 万円などです。



令和元年度会計別 9月補正の内容（歳入・歳出）

会計別	区分	予算額		計
		補正前の額	補正額	
(1) 一般会計		367 億8,348 万円	24 億4,366 万円	392 億2,714 万円
(2) 特別会計				
	国民健康保険事業	70 億9,251 万円	2,041 万円	71 億1,292 万円
	介護保険事業	68 億118 万円	3,427 万円	68 億3,545 万円
	宮古市墓地事業	456 万円	641 万円	1,097 万円
(3) 企業会計				
	水道事業 資本的収入	3 億7,102 万円	2,692 万円	3 億9,794 万円
	〃 資本的支出	7 億1,124 万円	3,020 万円	7 億4,145 万円

今回補正の主な事業（一般会計）

事業名	補正前の額	事業内容
	補正額	
	補正後の額	
グリーンピア三陸みやこ施設管理事業（震災対応分）	0	グリーンピア三陸みやこの仮設住宅跡地のテニスコート 12 面を修復する工事費用です。
	1,800 万円	
	1,800 万円	
田老地区防災集団移転促進事業（震災対応分）	4,447 万円	三王団地内の公園に健康遊具を整備するための費用です。
	3,000 万円	
	7,447 万円	
赤前地区集会施設整備事業（震災対応分）	0	赤前地区集会施設の新築工事を行うための費用です。
	6,850 万円	
	6,850 万円	
施設型給付費等支給事業	9 億 3,484 万円	国による副食費免除相当額の公定価格加算分及び 0 ～ 2 歳児の課税世帯の市独自軽減分として支援します。
	4,011 万円	
	9 億 7,495 万円	
副食費給付事業	0	国の幼児教育・保育無償化にあたり、市独自支援として、月額 4,500 円を上限に副食費を支援します。
	1,836 万円	
	1,836 万円	
施設等利用給付事業	0	預かり保育、認可外保育施設等の利用料に国及び市独自軽減を行うための費用です。
	1,345 万円	
	1,345 万円	
林業施設改修事業（林道改良）	420 万円	林道亀ヶ沢線他の改良工事費のための費用です。
	7,326 万円	
	7,746 万円	
海産物等地域ブランド化販売促進事業（震災対応分）	0	マダラを対象に地域ブランド化、差別化を図れるよう調査研究を委託するための費用です。
	755 万円	
	755 万円	
河南高浜線道路整備事業（震災対応分）	1 億 9,370 万円	河南高浜線道路整備事業の一層の工事推進を図るための費用です。
	8,500 万円	
	2 億 7,870 万円	
末広町線無電柱化推進事業（震災対応分）	1,163 万円	10 月 26 日から 9 日間の社会実験を行うため、末広町線社会実験運営支援業務と測量等の業務を委託するための費用です。
	1,964 万円	
	3,127 万円	
田老地区、鉾ヶ崎・光岸地区津波監視カメラシステム整備事業（震災対応分）	0	田老港と宮古港に津波監視カメラシステムを整備するための事業工事の実施設業務委託料です。
	850 万円	
	850 万円	
教育委員会事務局費	1 億 5,979 万円	藤原小学校閉校記念事業補助金や統合用学用品等購入費の補助金です。
	146 万円	
	1 億 6,125 万円	

賛否一覧表

令和元年 9 月定例会議

議案番号 議案名 (議席番号順)	議案第 6 号 宮古市職員定数条例等の一部を改正する条例	議案第 9 号 消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係条例の整備に関する条例	認定第 1 号 平成 30 年度宮古市一般会計歳入歳出決算の認定について
	賛成	反対	賛成
1 白石雅一	○	○	○
2 木村誠	○	○	○
3 西村昭二	○	○	○
4 畠山茂	○	○	○
5 小島直也	○	○	○
6 鳥居晋	○	○	○
7 熊坂伸子	○	○	○
8 佐々木清明	○	○	○
9 橋本久夫	○	○	○
10 伊藤清	○	○	○
11 佐々木重勝	○	○	○
12 高橋秀正	欠	欠	○
13 坂本悦夫	○	○	○
14 長門孝則	○	○	○
15 竹花邦彦	○	○	○
16 落合久三	×	×	×
17 松本尚美	○	○	○
18 加藤俊郎	○	○	○
19 藤原光昭	○	○	○
20 田中尚	×	×	×
21 工藤小百合	○	○	○
22 古舘章秀	－	－	－
採決方法	システム	システム	システム
議決結果	可決	可決	可決

※採決方法欄の「システム」とは、表決システムによる採決（議員の賛否が議場で明らかに）

「○」＝賛成者、「×」＝反対者、「退」＝退席者、「欠」＝欠席者、「除」＝除斥、「－」＝議長（採決に加わらない）

○宮古市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例
▼代替保育を提供するための連携施設の確保要件の緩和や、家庭的保育事業等での食事提供の特例に関する搬入施設の範囲の拡大などを定めた条例です。
○宮古市保育所条例等の一部を改正する条例
▼公立保育所の保育料を徴収しないことを定めた条例です。
○宮古市営住宅条例の一部を改正する条例
▼田老三王災害公営住宅の共同施設として児童遊園を設置することを定めた条例です。

可決した意見書
新たな過疎対策法の制定に関する意見書
▼過疎地域が果たしている多面的・公共的機能を今後も引き続き維持していくため、新たな過疎対策法の制定を国に対し強く求める意見書です。総務常任委員会により意見書案が発議され、本会議で審議・可決されました。
決算は3分科会で審査
平成30年度の決算については、議長を除く全議員で構成される決算特別委員会（工藤小百合委員長）が設置され、3つの分科

会で予算の執行状況や事業実績などの審査が行われました。平成30年度の一般会計歳入は462億1576万8千円（前年比16・7％減、執行率87・2％）、歳出は438億5738万7千円（前年比15・9％減、執行率82・7％）でした。一般会計と特別会計を合わせた決算額は、歳入が621億8952万3千円、歳出が596億3309万3千円となりました。
10月11日の本会議では、工藤委員長が18件の審査結果を報告し、このうち一般会計で討論が行われ賛成多数で認定されました。特別会計、企業会計17件については全会一致で認定されました。

討 論		9月定例会議の本会議では、以下の3つの議案について討論が行われました。議案、発言者をお知らせします。	
議案第6号	宮古市職員定数条例等の一部を改正する条例	○反対 田中議員	○賛成 竹花議員
議案第9号	消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係条例の整備に関する条例	○反対 田中議員	○賛成 なし
認定第1号	平成30年度宮古市一般会計歳入歳出決算の認定について	○反対 田中議員	○賛成 西村議員

決算特別委員会に付託された 平成30年度決算の分科会ごとの 審査概要をお伝えします。



平成30年度決算審査

総務分科会

(分科会長 松本尚美)

◆一般会計・歳出◆

■広聴事務

問 私の提言「市長への手紙」の中で、市の今後につながる提言はあったか。

答 平成30年度には、JR宮古駅前の禁煙対策の提言があり、禁煙エリアに設定し、喫煙所を設けた。また、金浜地域で街並みの変更に伴いバス路線の利便性の向上の提言をいただき、実現に向けて検討しているところである。

■ふるさと納税事務

問 ふるさと納税活用テーマ「市長におまかせ」の具体的な取扱いはあるものか。

答 平成30年度分の寄附金は、子ども子育て幸せ基金に積み立てている。令和元年度予算では、国民健康保険税の子供の均等割減免、特定不妊治療の助成事業、定住化促進を図るための

奨学金育英事業、小中学校の教材の整備に充当している。

■空家対策事業

問 空家リフォーム補助金は、空家バンクに登録されている物件が対象となるのか。

答 リフォーム補助金の利用は、空家バンクに掲載する物件もしくは掲載されている物件を所有者がリフォーム補助金を受けて、借りやすい、売りやすいような改修をされる場合や物件を借りたい人、買いたい人が補助金を使って改修して自分のものにする場合の2通りの方法がある。

■結婚支援事業

問 みやこ縁結び事業の実施に係る経費について、このくらいの経費をかけて、平成30年度にカップル成立はあったか。結婚に結びついたケースはあるか。

答 平成30年度のこの縁結び事業でイベントは2回実施した。それぞれカップルの成立については、1回目は3組、2回目も3組で、1年間の取り組みで、6組達成した。事業の趣旨は結婚を目指しての取り組みであり、出会いづくりの場を提供しカップル成立まで達成しているが、結婚に至ったかまでは追っていない。



みやこ縁結び事業で行った和菓子作り体験

■JR山田線利用促進事業

問 JR山田線利用促進ツアー3回の具体的な内容と参加人数は。

答 12月末に「宮古鮭まつりと宮古魚菜市場の旅」を実施し、参加者37名。1月27日に「冬の産直と真だらまつり」を実施し、参加者38名。3月3日に「宮古毛ガニまつり」を実施し、参加者34名。合計109名がツアーに参加している。

■路線バス対策事業

問 路線バスツアーの実施の内容はどのようなものか。

答 趣旨は、路線バスを使って利用促進と隠れた魅力を見つけてもらうもので、①山田町のオランダ島へのクルーズと山田のまち歩き(台風で中止)、②新

里の和井内地区でそば打ちとレールバイクの体験、③山田町でつまみ食いのまち歩きとハーバリウム(ハーブを利用した飾り物)をつくるツアーを造成している。

■収納事務

問 コンビニを通じて収納された市税等の総額は。

答 市税、税外の公金全体の合計は7億5379万円である。

■中心市街地拠点施設整備事業

問 中心市街地拠点施設建設関連工事の具体的な内容は。

答 工事が細かく複数あり、当初設計に入っていなかった駐車場の車両どめ、施設案内等のサインの追加、庁舎内にビクチャーレールの設置、避難通路にミラーの設置、音楽スタジオに利用者からの提案により音の吸収カーペットを設置など。

■防災事務

問 避難所用テレビ18台は、どこに避難所に設置したのか。

答 学校の体育館が避難所になっているところに配置した。学校の体育館には、そもそもテレビがないため、情報収集や避難者が視聴できるようにとの要望があり、設置した。

◆一般会計・歳入◆

■地方交付税

問 特別交付税が増えている要因は。

答 震災復興特別交付税の傾向としては、震災事業が終息して減る分もあるが、過年度分の過少分が追加になり増えた。

教育民生分科会

(分科会長 熊坂伸子)

◆一般会計・歳出◆

■地域力向上支援補助金

問 3組織とも旧新里地区であるが、他の地区にも公平に周知されていたのか。

答 市民共同推進事業全般について、自治会の総会や行政連絡員の会議で広く周知している。

■男女共同参画推進費

問 男女共同参画サポーターの認定後の活動内容を伺う。また、審議会等の委員や、市の役職においても数値目標を掲げているが、取り組み状況はどうか。

答 サポーターは本市の男女共同参画を担う位置付け。認定者が「あじさいの会」を結成し、講座運営にも関わっている。市の審議会等での女性登用については、昨年度実績で29%。例年

3割程度を推移している。

■再生可能エネルギープロジェクト推進事業

問 現在の本市の再生可能エネルギーの自給率は。

答 平成25年度が4.3%、平成27年度が12.5%である。



大規模太陽光発電所(メガソーラー)

■児童虐待防止事業

問 児童虐待防止事業について。相談件数39件とあるが、どのような相談があり、どう対応しているのか。

答 39件の多くが、ネグレクトと心理的虐待。家庭児童相談員が対応し、警察署や児童相談所などで構成する、宮古市要保護児童対策地域協議会と連携して対応している。

■子ども・子育て幸せ基金

問 在宅子育て支援事業へ、対象年齢の延長、所得制限の撤廃、支給金額の増額といった要望はあるか。また、検討をしているか。

答 アンケートでは支給額の増額や対象年齢の延長を要望する声がある。公平性については考えた。

■医師等養成事業

問 制度利用の見込みと実績には開きがあるが、この差をどのように分析しているのか。

答 毎年新規2名を見込んで予算計上しているが昨年度は実績がなかった。周知不足が原因と考えられるため、高等学校のほかに医学部へもPRを広めた。

■不登校児童生徒支援事業

問 通級者が12人との実績だが、適応指導教室から学校に戻る者、適応指導教室を辞めた者の数は。

答 12名のうち学校に復帰したのは2名。辞めた者はいないが、通級ができなくなった者が1名いて、今年度も働きかけを続けている。

問 不登校の数値に関して、平成30年度予算審査時には小学生11名、中学生34名だったと記憶している。実績値で大きく増え

ているが、どう捉えているのか。

答 大きな課題だと捉えている。不登校が増加するのは、小6から中1への進学時である。小中連携で魅力ある学校づくりを行うことにより対応しようと考えている。

◆一般会計・歳入◆

■学校給食費滞納繰越分

問 田老及び川井給食センターの滞納繰越分の収入未済額を解消する取り組みは行っているのか。また、回収の見込みがないものは不納欠損処理ができないのか。

答 東日本大震災後、被災等があり田老分は催告を控えている。対象世帯の実態把握に努めたい。不納欠損については、教育委員会単独での判断は難しいが、可能性を検討していきたい。

◆特別会計◆

■国民健康保険事業勘定特別会計

問 財政調整基金の取り崩しがあり残額が少なくなっているが、収支の詳細を伺う。

答 平成29年度分の国庫補助金の返還のために取り崩したものの。実質収支で見ると約2000万円のプラスになる試算だが、広域での国保事業費納付金の調整があるため、評価は

暫定的なものである。

◆特別会計◆

■介護保険事業特別会計

問 今回の決算で財政調整基金はいくらになったか。基金の積み上げ方をみると、介護保険料の設定が高いのではないかと感じるがどうか。

答 現時点で約5億2700万円の積み立てになった。今年度後半から第8期計画の策定準備に着手し、令和2年度中に計画を策定する。

(分科会長 佐々木重勝)

産業建設分科会

◆一般会計・歳出◆

■グリーンピア三陸みやこ施設管理事業

問 グリーンピア三陸みやこへの指定管理委託料は3800万円であるが、決算で経常損失が1800万円を超えている。この決算をどのように分析しているか。

答 東日本大震災以後、復興需要で一時期宿泊客が増えたが、年々減少している状況である。現在、グリーンピア三陸みやこの第3期活用計画の見直し策定中である。また、グリーンピ

ア三陸みやこにおいても、経営改善に向けた計画を策定中と伺っており、それらと合わせて今後の利活用を考えていく。

■雇用対策事業
問 トライアル雇用奨励金の成果を伺う。

答 国のトライアル雇用制度終了後、引き続き常用雇用されている方が12名いる。本制度は、国の制度の上乗せということことで、市内企業の支援になっているものと考ええる。

■農業委員会組織関係費

問 遊休農地の発生防止・解消と農地の確保・有効利用として、農地の利用状況調査、利用意向調査を実施した、とあるが、調査の結果、農地を利用しないとなった場合はどのようにするのか。

答 本調査の結果、農地を利用しないとの回答があった場合は、農業利用最適化推進委員が本人と中間管理機構への貸し出しも含めた借地及び売却等利用方針についての相談の場を設けている。

■薬師塗漆工芸館運営

問 薬師塗漆工芸館の入館者数が減っている。入館者数を増やす具体的な手立てを考えているか。

答 道の駅も含め、お客さんに

立ち寄ってもらえる目的型の施設を目指し、やまびこ館、漆工芸館の一体的な運営、連携運動した取り組みがますます重要であると考ええる。今後、漆工芸館の運営形態についても検討していく。

■水産物消費拡大事業
問 目黒のさんままつりの当初の目的は、消費拡大が大きなテーマである。さんまが獲れないなか、現時点の事業評価を伺う。

答 できるだけ継続して実施すべきだと思っている。宮古のさんまのPR場所としては、今現在考えられる場所の中で1番いい場所だと認識しており、事業は継続すべきと考ええる。



毎年大勢の来場者で賑わう「目黒のさんま祭り」

■私道整備事業

問 実績が1件のみとなっているが、この理由は何か。

答 この事業はスタートしてから約10年経過している。事業を始めてから多い年で2件、また実績がない年度もあり、1件、2件というのがここ10年の推移である。今年度は先月末時点で3件の申請があり、合計39.8万円程交付決定しているところ。そのほかに申請前の事前相談として2件の相談を受けている状況である。

■タグボート常駐経費補助金
問 平成30年度のタグボート利用回数73回に対し、補助金額7300万円は高いのでは。

答 フェリー就航に当たり、タグボートが常に宮古港にいないければならないという条件があった。宮古港にいなかったものを常駐させる経費として掛かっているもので、利用回数によって経費が掛かるわけではない。なお、7300万円のうちの2分の1は県からの補助が充当されている。

◆特別会計◆

■魚市場事業特別会計（市場管理費）
問 既設棟改修工事監理業務委託で当初予算930万円に對

し、結果として299万円の決算となっている。7割近くが不用品となっているがこの理由は。

答 1回目の入札が不調に終わり、2回目を行った結果、この金額で落札となったもの。応札は7者で行われた。

◆企業会計◆

■水道事業会計

問 損益計算書中の特別損失の過年度損益修正損について、こちらに金額が計上されている理由は。

答 漏水によるものである。漏水による減額は、その箇所の修理を行い、それから減額申請となることから申請時点での修正となり、その分について、こちらに金額が計上されるものである。



宮古市議会の情報をリアルタイムで

インターネット中継

本会議は生中継（ライブ配信）しています。録画中継は、本会議のおおむね5日後（土日祝を除く）から配信します。（パソコン、スマートフォン、タブレット端末に対応）

Facebook

宮古市議会のトップページのリンクをクリックしてご覧ください。

みやこハーバーラジオ（82.6メガヘルツ）

本会議開催中の午前8時10分頃からの放送です。

次回12月定例会議

12月上旬の開催予定です。会議日程が決まり次第、宮古市議会のトップページに掲載します。詳しくは議会事務局におたずねください。（☎68-9113）mail: gikai@city.miyako.iwate.jp

一般質問
ここが聞きたい

市政を問う

- 長門孝則 議員（無所属クラブ）……………（11）
- 1 再生可能エネルギーについて
- 田中尚 議員（日本共産党）……………（12）
- 1 行政運営の適正化について
 - 2 地域医療の充実について
 - 3 市長の政治姿勢と県との連携について
- 松本尚美 議員（無所属クラブ）……………（12）
- 1 三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路全線開通の影響と対策について
 - 2 震災復興完遂と地域活性化について
- 白石雅一 議員（復興を考える会）……………（13）
- 1 担い手育成支援として一次産業就業者のシェアハウスを
 - 2 新社会人が地域で孤立しないようコミュニティづくりの支援を
 - 3 行政自ら働き方改革を進めワーク・ライフ・バランスを確保するべき
 - 4 宮古市の地域おこし協力隊に幅広い希望者が応募できるように要項の見直しをするべき
 - 5 魅力ある水産高校づくりに幅広い視野を
- 熊坂伸子 議員（ネクストみやこ）……………（13）
- 1 宮古市総合計画策定にかかる住民参画について
 - 2 病気治療にかかる補正具購入支援について
 - 3 県要望にかかる水産高校養殖科の新設について
- 落合久三 議員（日本共産党）……………（14）
- 1 小型漁船漁業・養殖・磯漁業の振興について
 - 2 医療費の窓口負担ゼロ（現物給付）を市単独で中学生まで拡大することについて
- 竹花邦彦 議員（新風クラブ）……………（14）
- 1 幼児教育・保育の無償化に伴う課題について
 - 2 学童保育の職員配置基準の参酌化に伴う対応について
 - 3 ふるさと納税について
- 畠山茂 議員（新風クラブ）……………（15）
- 1 宮古市港湾振興ビジョンについて
 - 2 三陸沿岸道路に対応した道の駅について
- 木村誠 議員（尽政クラブ）……………（15）
- 1 がん検診の現状と受診率の向上に対する取り組みについて
- 橋本久夫 議員（ネクストみやこ）……………（16）
- 1 港の価値を高める港湾振興策について
 - 2 スポーツの振興について
- 伊藤清 議員（無所属クラブ）……………（16）
- 1 電気牧柵等の導入費用の支援について
 - 2 ドローンを活用した薬剤散布について
 - 3 特別栽培米の不足分に地元産慣行栽培米の利用を
- 西村昭二 議員（ネクストみやこ）……………（17）
- 1 産業振興と農業被害軽減のためのジビエ肉加工施設建設について
 - 2 ペット（飼い犬等）の管理マイクロチップ埋め込み費用の助成について



長門 孝則 議員

質問
市長が行った
ドイツ視察の成果は

答弁
シュタットベルケが
有効な手段



宮古市区界にある「宮古くざかいソーラーパーク」

問 市長は本年6月に再生可能エネルギーの先進地であるドイツを視察しているが、その成果はどうであったか。

答 山本市長
ドイツでは、産業革命前から世界の平均気温の上昇を2度未満に抑える「パリ協定」の目標達成に向けて、化石

燃料・原子力から再生可能エネルギーへの大転換を目指しており、その取り組みの中心を自治体が出資する「シュタットベルケ」と呼ばれる都市公社が担っている。

ドイツ視察において、住民同士の距離感が近い人口5万人規模が「シュタット

ベルケ」の運営に適正であること、多様な再生可能エネルギー資源を有する本市には持続可能なまちづくりを進める上で「シュタットベルケ」が有効な手段になり得ることを学んできた。

本市において、ドイツの運営モデルを取り入れるための課題もあることから、

市が既存の新電力会社に出資する方法や地元企業などと共に新電力会社を設立する方法など、本市に相応しい最も有効な方法を検討の上、進めたい。

■木質バイオマスについて

問 木質バイオマス事業の熱利用はどうか。

答 山本市長

木質バイオマス発電時の排熱は、プールなどの温浴施設や食用魚の飼育施設、ハウス栽培施設など、様々な利用がなされている。

このような木質バイオマスの利点を踏まえ、熱利用はもとより、「地域内経済循環」に結びつく取り組みを積極的に進める。



田中 尚 議員

質問 宮古病院のさらなる機能向上は

答弁 救命救急センターの設置を強く要望



望まれる救命・救急センター整備

問 ①医師の偏在と関連する医師不足の中で、ドクターヘリの活用などが行われて来ている。インターネットの普及とIT技術の向上は専門医の画像診断および遠隔治療などの可能性を広げている。初期医療から入院等の二次医療機能を担う県立宮古病院を中核とする運用実

態や課題は何か。
②地域医療の充実には県立宮古病院のさらなる医師確保と同時に、その役割と機能向上が必要である。県立病院の配置状況、とりわけ救急・救命センターについて市長の認識を伺う。

答 山本市長 ①情報通信技術の「みやこサマーシケアネット」では、効率的な医療提供のため、患者の医療データ等の情報共有を可能にしている。その参画施設は7月末で124か所である。市の診療所では電子カルテの導入等情報化を進めてお

り、川井診療所では遠隔画像診断を実施、昨年度は247件の読影レポートで診断、治療に活用している。
②引き続き宮古病院の常勤医師の確保、救命救急センター化を強く要望して行く。
■市長の政治姿勢と県の連携は。
問 市長は知事選挙で国、県内市町村長との緊密な連携不足を理由に対立候補を支援した。連携不足で市にどのような不都合が生まれ、副市長2人制との関係で、どのような改善効果をあげているのか。
答 山本市長 ワールドカップ公認キャンプ地の決定等は県との強い連携で成し遂げられたと考えており、今後も県との連携を深める。



松本 尚美 議員

質問 高規格道路全線開通後の対策を早く

答弁 観光、物流の環境整備に取り組む



高規格道路の開通に向けて受け入れ環境の備えが求められる

問 三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路が令和2年度中に全線開通することが国交省から発表された。これらの道路をいかに活用し、経済が拡充し、人口減少に歯止めがかかり、活性化し豊かになるためには、しっかりと受け入れ環境の備えや、生産環境を整えなければ、復

興ではなく、衰退道路になる。
また、直線化することによって沿線の過疎化に拍車がかかる。市長の見解を伺う。
答 山本市長 本市を目的地としていただくために、受け入れ環境の整備による一層の魅

力向上が必要と考えている。市の経済効果、利用者の利便性が増すような取り組みを進める。
■国・県との連携への市長の所見は。
問 首長が国民として、政治家としては問題なく肯定するが、市長は知事選

において特定の候補を震災復興完遂と地方創生、地域活性化には政権与党との連携が重要と示すと共に、国への働きかけで知事と連携出来ないと言った。
市長の発言が事実だとすれば看過できない。震災復興完遂と地方創生、地域活性化は大命題だ。国、県との連携の市長の発言についての見解を伺う。
答 山本市長 本市の抱える地域課題については、県に対しても、県事業推進、国への働きかけなど、様々な分野で要望し、連携して取り組みを行ってきた。今後も震災復興完遂、地域活性化に連携して取り組んでいく。



白石 雅一 議員

質問 新社会人のコミュニティ支援を

答弁 事業成果を注視し支援を行っていく



新社会人を対象にしたルーキーズカフェ (本年6月開催)

問 市ではU・イターン施策に力を入れているが、今後は高校卒業しそのまま地元就職した若者たち、そして県外に進学し大学卒業後にUターン就職した若者たちに対しての支援が必要だと感じる。職場や地域に、悩みを相談し合える同世代の仲間がいないなど、地域に

残った若者たちが孤立しやすい環境があるのではないかと。そこで教育・成長の機会のある場として、新社会人のコミュニティづくりの支援政策が必要だと思いがどうか。
答 山本市長 宮古市では、従来から市内事業者

の共同新入社員研修が実施されており、近年は市内NPO法人にて若者同士のネットワーク構築を目指した取り組みが始まっている。これらは早期離職防止や定住化促進に効果的であると認識している。事業成果を注視し必要な支援を行っていく。

■担い手育成支援として一次産業就業者のシェアハウスを
問 人口流出、一次産業の担い手不足が問題視される中、若者の定住化支援の政策として、空き家を使った一次産業新規就業者のシェアハウス事業が広がりに始めている。この政策は、一次産業の担い手不足と空き家問題を解決し、若者の定住を進めることができる可能性があるが、市でも検討し実施するべきと感じるが、どのように考えているか。
答 山本市長 市では担い手確保対策の中で、U・イターン対象の家賃助成を行っているが実績はまだ無い。空き家バンクとの連携を取り、住居が確保できるよう掲載物件の拡充を図る。



熊坂 伸子 議員

質問 総合計画策定にもっと住民参画を

答弁 広報、周知を工夫し改善する



「皆で目指す十年後の宮古市」を示す宮古市総合計画

問 市民との協働のプロセスを重視した総合計画の策定が肝要です。次期総合計画策定にかかる取り組みでは住民参画の工夫が不足していると思います。市長の見解を伺います。
答 山本市長 次期総合計画の策定過程において

は、多様な市民参画の機会を設けている。広報、周知に工夫を重ね、より多くの方々の参画が得られるよう、改善を図っていく。

■医療用補正具購入に支援を
問 患者の経済的負担を軽減するとともに、社会参加の促進及び療養生活

の質の向上を図るため、医療用かつらや胸部補正具等の購入費用を助成する自治体が増えてきました。宮古市でも検討していただきたい。
答 山本市長 今後、患者やその家族からの聞き取りなどにより、実際にどのようなニーズがあるか、情報収集していく。
■養殖科新設の県要望について
問 今年度の県要望に、県立宮古水産高校への養殖科新設が盛り込まれました。現状では実現は厳しいと思われるが、市としては今後どのようにして、実現させるのか伺います。
答 山本市長 沿岸市町村と連携し、三陸沿岸の魅力発信し、子供たちが、養殖漁業を将来の職業の一つとして選択できるよう周知していく。また、宮古水産高校と、養殖科新設のあり方について、検討する場を設けるなど、情報共有を図りながら県への要望を続けていく。



落合 久三 議員

質問 漁船漁業のさらなる推進には

答弁 水揚げ増大と担い手育成確保が必要



宮古の毛ガニ

問 ①現在（9月27日）サンマの水揚げはゼロだ。17日北海道のサンマ船が沖合640㌾地点で遭難した。群れが見つからず沖へ沖へと行った結果だ。事態は深刻である。こうした時だからこそ三大魚種（サケ、サンマ、スルメイカ）以外の水揚げについて現状を共有すること

とが重要だ。平成30年度魚市場全体の水揚げに占める三大魚種の割合は数量で37%、金額で52%。それ以外の魚種で水揚げ1億円以上はタラ（9億円）吉次（3億6千万円）タコ（2億7千万円）サバ 助宗 イサダ カレイ類 カニで、8魚種の占める割合は数量で54%、金額で34%だ。漁船漁業振興で何が課題か。

②アワビ種苗生産の国補助が今年度で終了する。田老漁協の場合、年間120万個の生産に対し国の補助は2000万円だが来年度以降も延長するよう国にきちり要請すべきだ。

答 山本市長 ①水揚げの増大、担い手確保が課題であると考え。そのため、資源回復と確保、つくり育てる漁業が必要と考える。②県に確認したところ来年度も継続することである。

■中学まで医療費窓口負担ゼロに

問 宮古市は中学まで医療費無料化を実施しているが窓口でいったん支払い、後日返還される償還払いだ。子育てしやすい街という意味でも現物給付に踏み出すべきだがどうか。

答 山本市長 医療機関の協力を得て県統一で実施するのが望ましい。



竹花 邦彦 議員

質問 幼保無償化による待機児童対策等は

答弁 花輪保育所整備等で利用者増に対応



市内保育所の運動会

問 ①幼児教育・保育の無償化実施に伴い、保育所入所希望者が増加し、待機児童が増えることが懸念される。待機児童対策に向けた市の方策を伺う。

答 山本市長 土確保対策を併せて伺う。

無償化により、入所希望の子どもが増えると考えられる。対応として、新規施設の整備、既存施設の利用定員増等が必要になる。新規施設として、家庭的保育事業所を今年度も、磯鶏地区に1ヶ所開所した。また、新築工事中の花輪保育所が来春完成すると15名の定員増が図られる。

保育士確保では、花輪保育所の指定管理委託により、保育士を他の市立保育所に異動させることで、更なる児童の受け入れも可能となる。民間施設では、宮古

市子ども・子育て幸せ基金事業で、保育士に限っていた対象を幼稚園教諭に拡大する等、人材確保を図るよう検討する。

■学童保育の職員基準について

問 学童保育に関し、国は市職員配置基準を実質的に撤廃する参酌化基準とした。

子どもの安全と指導員の専門性を確保する必要があり、安易な基準引き下げを行うべきではない。市の対応を伺う。

答 山本市長 市は、学童保育の安全性と質の確保のため、現在の基準による職員配置を次年度以降も行う。



畠山 茂 議員

質問 今後の企業誘致の展望を伺う

答弁 県と情報共有を図り、取り組む



藤原ふ頭工業用地の空き地

問 宮古市港湾振興ビジョンについて、①市民から若者の雇用の確保は要望や期待が多く、一方で企業誘致は長年進展がない。今後の企業誘致の展望について伺う。②リアスハーバー宮古は、国からマリンチック街道に選ばれたが効果や今後の事業展開を伺う。③出崎ふ頭

先端地区の整備は、来年度に完成予定。今後の出崎地区の活用について伺う。④交流人口の観点から、国が募集している「釣り文化振興モデル港」を目指すべく、見解を伺う。⑤今年4月、県内初となる10万トンを超える大型客船が寄港した。今回の成果と今後の課題を伺う。

答 山本市長 ①藤原ふ頭工業用地は、土地所有者の県と企業誘致に取り組む。また、補助金制度の見直しの調査・研究も進める。②リーフレット等でPRをしており魅力が広く発信され誘客につながると期待する。③現在、県が宮古港出崎地区緑

答 山本市長 既存の道の駅について、イベントや地域の魅力を発信して誘客を図り、地域活性化に取り組む。

問 ■三陸沿岸道路に対する道の駅の戦略は

答 三陸沿岸道路は来年度に全線開通の見通しだが、交通量の激変が予測される。今後の道の駅の戦略について伺う。



木村 誠 議員

質問 ガン検診の受診率を向上させるには

答弁 受診の動機づけの方法を工夫する



積極的にガン検診を受診しよう

問 平成30年4月までの実績によると、本市で実施されたガン検診で合計35人に腫瘍が見つかった。未受診者はこうした実績を知らず、検診の重要性や早期発見の大切さに気付くための情報不足ではないかと考える。例えば、パンフレットや推奨ハガキ

など、こうした実績を記すことで、検診の重要性を認識し、ガンを身近な問題と考え、受診への動機付けになると考えるが見解を伺う。

答 山本市長 受診率向上の取り組みとして、毎年検診前に開催している保健推進委員の

問 働く世代が受診しやすいよう、検診日や時間帯を見直すべきと考えが見解を伺う。

答 山本市長 今年度を実施する49日間の検診日程のうち、土日祝日の実施は14日間となっている。夜間の実施に関しては、以前実施した結果、受診率の向上につながらなかったことから、県内の自治体では行っていない。今年度からの取り組みとして、女性が受診しやすい環境とするため、レディース検診を2日間設けている。今後も引き続き、市民のニーズの把握に努め、受診しやすいガン検診の実施に努める。



橋本 久夫 議員

質問 港の価値を高める 港湾振興策を

答弁 委員会で新しい ビジョン案を策定中



かつて賑わいをみせた
宮古港藤原ふ頭

問 ①今般、新たに策定される宮古市港湾振興ビジョンはどのような方向性を示し、どのような港湾の姿を目指していくのか。②出崎ふ頭の埋め立て整備後は、どのような機能を持たせ何の効果を狙うのか。③以前提案した海釣り公園の計画も見えるがその内容は。④ふ頭を

拠点にした小型船ツアーや海上タクシーなど海上交通システムも再度検討すべきだ。⑤神林木材港のブレイジャースポット対応として、早急に泊地整備の目処を立てるべきだ。⑥フェリー利用促進のためのプロモーションが必要。これらの現状と対策を伺う。

答 山本市長 ①港湾振興ビジョンは委員14名で委員会を構成し、現在策定中である。②出崎ふ頭は観光拠点の一つで「みなとまちづくり」として、交流人口の拠点となるよう検討している。③イベント広場や海釣りエリアの整備案が提案されている。

る。④海上交通システムは関係者との調整を図る。⑤神林木材港は県が今年度、検討委員会を設置し、あり方を検討すると聞いている。⑥フェリーのプロモーションは、各関係団体と連携し積極的に展開する。

問 ■スポーツアクティビティの取り組みを宮古地域の豊かな自然環境を活かしてスポーツアクティビティを展開し、観光や交流人口の拡大、地域の人々の健康増進につなげることが出来る。取り組みを伺う。

答 山本市長 「みやこスポーツコミッション連絡会議」を設立した。ニーズを把握しながらスポーツアクティビティ振興に取組む。



伊藤 清 議員

質問 電気牧柵等の購入 費用の支援を

答弁 地域と密接に協議 のうえ進めていく



シカ被害対策に有効な電気牧柵

問 農家ではシカ被害対策として、個々に電気牧柵を設置し対策を進めている。しかし、未設置の農地も多く、被害が拡大しており、耕作をあきらめる農家も増えている。電気牧柵の設置にあたっては、現状、国の補助を利用することが可能だが、集落ごとの広範囲の設置

は、補助額の関係で一度に設置することができない。市独自の補助により短期間で広範囲の整備が可能となるよう支援拡充が必要と考えるが見解を伺う。

答 山本市長 市単独の事業は、小規模の電気牧柵設置に係る購入費を対象としている。

問 国の補助事業においては、不足分を追加要望により実施できる場合もあることから地域と密接に協議のうえ進めていく。

答 山本市長 ドローンでの薬剤散布を県内では農薬散布時の労力負担軽減と時間短縮のため、ドローンによる散布が増えている。当市も購入費用、

免許取得等の支援を検討すべきと考えるが見解を伺う。

答 山本市長 ドローンの導入には、操作ライセンス取得が必要であり、認定講習会の受講が義務付けられ、また、航空法に基づく散布計画や実績報告の義務もある。ドローンは1台あたり二百万から四百万円と高額だが、導入には、国事業で導入費の2分の1を、県事業で3分の1、市6分の1の補助を受けて導入が可能である。導入に関しては、導入後の管理や運用面などの課題もあることから、作業者の負担軽減となるよう研究していく。



西村 昭二 議員

質問 ジビエ(※)加工施設 建設について

答弁 情報収集している ところ



ジビエ肉を活用したジビエ料理

問 近年、岩手県全域において、ニホンシカによる農作物の被害が増加傾向にある。宮古市は沿岸部の中央に位置し、復興道路や宮古室蘭フェリー航路等の交通網があることから、有害捕獲事業などによって捕獲され廃棄処分となっているニホンシカをジビエ肉として利活用

することによって、産業振興や農業被害軽減といった利点が生まれると思う。ジビエ加工施設の建設が必要だと思うが市長の見解を伺う。

答 山本市長 本市で平成29年度972頭、平成30年度673頭のシカが捕獲され、ごみ

処理施設内に埋却処分している。国のモデル事業で17地区でジビエ肉のブランド化や加工品など様々な取り組みが行われている。新たな雇用の確保につながるものと考えている。現在、ジビエ肉加工施設の建設、運営等の可能性について情報収集している。

■マイクロチップ埋め込み費用助成について 本年6月、改正動物愛護法が成立し、内容は、すでに飼っている犬猫などのマイクロチップ装着の努力義務を課すといった内容等である。動物愛護と適正管理の観点から飼い主の負担軽減のため費用を助成するなどしたほうが良いと思うが、市長の見解を伺う。

答 山本市長 装着が進むよう推奨していきたいと考えている。費用の助成については、普及に繋がると考えることから検討を進めていく。

(※)ジビエとは、狩猟や有害捕獲事業等で捕獲された鳥獣の肉のこと

全国市議会議長会 永年表彰

全国市議会議長会第95回定期総会において、市議会議員として長年にわたり、地方自治の発展と振興に貢献した功績により、本議会より3名の議員が表彰を受けました。



○45年 表彰
田中 尚 議員



○25年 表彰
藤原 光昭 議員



○20年 表彰
加藤 俊郎 議員

※在職年数の計算は「全国市議会議長会表彰規程」に基づき、合併前の旧町村の勤続年数を2分の1として年数に通算し計算されています。

再質問、その他一般質問の詳細については、パソコン、スマートフォン、タブレットから動画にてご覧いただけます。

URL: <https://www.city.miyako.iwate.jp/gikainettyukei.html>



政務活動費の使用状況をお知らせします

政務活動費とは、議員が行う調査研究その他の活動に資するために必要な経費の一部として市から交付されるもので、交付額は議員1人につき年額15万円です。

政務活動費は、条例で定められた使途基準に従って使用し、どのような経費にいくら支出したのか、年度末に領収書の原本を添えて報告することになっています。経費が15万円に満たなかった場合は残金を返還し、15万円を超えた場合は、超えた分を自己負担することになっています。

平成30年度は22名が交付を受けました。議員ごとの使用状況については、下の表をご覧ください。

平成30年度 宮古市議会政務活動費 収支一覧 (単位:円)

議員氏名	交 付 決定額	支出額	返還額	支出実績	内 訳						
					研 究 研修費	調 査 旅 費	資 料 作成費	資 料 購入費	広報費	広聴費	その他 経 費
白 石 雅 一	150,000	51,533	98,467	51,533	0	18,852	0	20,691	11,990	0	0
木 村 誠	150,000	90,194	59,806	90,194	0	50,621	0	39,573	0	0	0
西 村 昭 二	150,000	46,932	103,068	46,932	0	46,932	0	0	0	0	0
畠 山 茂	150,000	73,473	76,527	73,473	50,286	0	0	23,187	0	0	0
小 島 直 也	150,000	90,910	59,090	90,910	0	50,510	0	40,400	0	0	0
鳥 居 晋	150,000	70,024	79,976	70,024	0	32,440	0	37,584	0	0	0
熊 坂 伸 子	150,000	53,169	96,831	53,169	0	53,169	0	0	0	0	0
佐々木 清 明	150,000	110,553	39,447	110,553	59,930	50,623	0	0	0	0	0
橋 本 久 夫	150,000	132,760	17,240	132,760	58,430	64,133	0	10,197	0	0	0
伊 藤 清	150,000	82,164	67,836	82,164	0	71,967	0	10,197	0	0	0
佐々木 重 勝	150,000	83,984	66,016	83,984	0	54,227	0	29,757	0	0	0
高 橋 秀 正	150,000	150,000	0	158,446	97,646	0	0	40,800	20,000	0	0
坂 本 悦 夫	150,000	142,813	7,187	142,813	77,560	0	0	65,253	0	0	0
長 門 孝 則	150,000	150,000	0	158,735	0	136,341	0	22,394	0	0	0
竹 花 邦 彦	150,000	108,101	41,899	108,101	49,306	0	0	58,795	0	0	0
落 合 久 三	150,000	0	150,000	0	0	0	0	0	0	0	0
松 本 尚 美	150,000	82,829	67,171	82,829	0	70,517	0	12,312	0	0	0
加 藤 俊 郎	150,000	99,453	50,547	99,453	52,260	47,193	0	0	0	0	0
藤 原 光 昭	150,000	150,000	0	153,164	49,426	19,280	0	84,458	0	0	0
田 中 尚	150,000	150,000	0	184,150	99,910	0	0	84,240	0	0	0
工 藤 小百合	150,000	105,967	44,033	105,967	51,740	54,227	0	0	0	0	0
古 舘 章 秀	150,000	12,657	137,343	12,657	0	0	0	12,657	0	0	0
合 計	3,300,000	2,037,516	1,262,484	2,092,011	646,494	821,032	0	592,495	31,990	0	0

※宮古市議会では、政務活動費の収支報告書をホームページへ掲載しています。
詳しくは議会事務局（☎ 68-9113）までお問い合わせください。

議会トピックス

市内廃校舎の 現地視察を実施

総務常任委員会は、8月22日、廃校となっている市内7箇所の現地視察を行いました。少子化に伴い、学校の統廃合による廃校舎の増加が全国的にも問題視されており、当市でもそれらの利活用について模索しているところです。廃校舎は現在、一部避難所等にも利用されていますが、有効な利活用方法を見いだせていないというのが実情です。

視察をした廃校舎は、現状のままでは利活用が困難と思われる老朽化したものや、一方で未だ木のぬくもりを感じる立派なものもあり、その状態は様々でした。

さらに増加していくと予想される廃校舎の利活用については、地域コミュニティ作りの場としての利用や企業誘致等を軸に、時間をかけて議論すべき課題であることを改めて認識しました。



市政調査会「環境エネルギー事業」について 研修会を実施

※市政調査会…市議会議員を会員とし、市政に関する調査研究等を行う会

8月26日、市政調査会では「環境エネルギー事業」について研修会を実施し、現地視察と講演会を行いました。

現地視察①

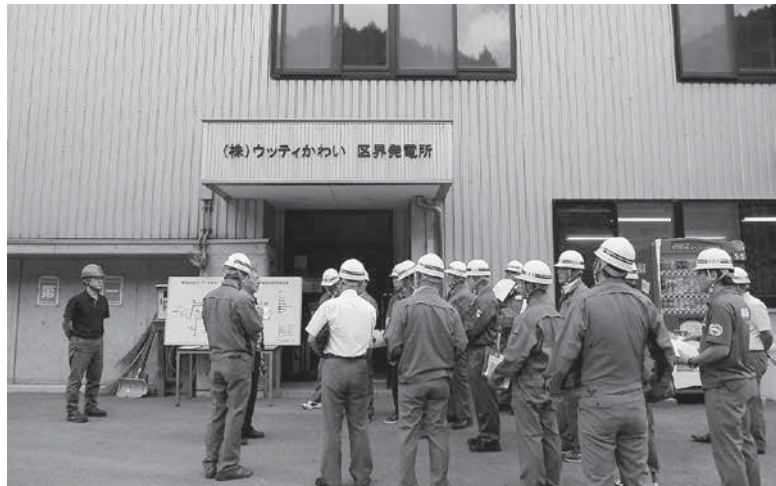
…株式会社ウツティかわい 区界発電所
(再生エネルギーを活用した木質バイオマス発電設備)
代替エネルギーとして環境に負荷のない木質バイオマス発電設備を株式会社ウツティかわいが区界に設置。県内で初めて再生可能エネルギー電力固定価格買取制度(FIT)の設備認定を受け、平成26年3月に運転開始しました。

現地視察②

…宮古くさかいソーラーパーク
施設は、区界の市の所有地49haに設置され、仏国のトタル社と米国のサンパワー社が約80億円を投じて、令和元年5月30日に完成しました。

講演会

…再生可能エネルギー施策にかかるドイツ視察報告
(講師…宮古市環境エネルギー担当部長 滝澤肇氏)
宮古市は再生可能エネルギー施策を課題に6月22日から29日の日程で、ドイツの各



都市や研究所を視察。講演会では滝澤部長から「石油中心から再生可能エネルギーに転換するシフトの役割を発揮している都市公社(シユタツトベルケ)の存在は大きい。公社は、エネルギー中心に公共サービスを担う組織で、国内に約1000社ほどあり、電力小売りや公共交通事業などを運営し、雇用を作り出し、地域循環型経済に貢献している。」との報告がありました。

編集 後記

編集委員
佐々木 清明

10月12日から13日にかけて東日本を縦断した台風19号は、洪水や土砂による甚大な被害をもたらし、本市でも一名の方がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様の一日も早い生活再建を願っております。9月の定例会議では、決算特別委員会での税金が適切に使われたかチェックを行いました。ここで出された意見等は、予算にも反映され、よりよい宮古市を作ることになります。今後は、災害復旧関連の補正予算や、新年度の予算が出てきますが、本市がよりよい方向に進むよう、議員一同努力していきたいと考えています。

議会広報編集特別委員会

委員長 白石 雅一
副委員長 西村 昭二
編集委員 畠山 茂
小島 直也
鳥居 晋
佐々木 清明

みんなの らウンジ

就学前の幼児教育・

保育に係る費用無償化

幼児教育・保育の無償化に関する条例が、9月定例会議で可決されました。この条例により年齢や所得に関わらず全ての0～2歳児の保育料が無償化となり、実費徴収となる3～5歳児の副食費も実質無償化となります。市の施策や、本市での子育てについて、パパ・ママや幼稚園の先生方はどう考えているのか、お話を伺いました。

現在、子育て中の
市内在住 大村さん

— 宮古市の子育て施策（10月からの無償化）について知っていましたか？

大村さん 知っていました。

— その施策についてどうおもわれますか？

大村さん とてもありがたいことです。2歳の女の子がいますが、11月24日に2人目が生まれる予定です。安心して子育てができる環境にもらえたことで、3人目の子供も欲しいと思います。

— 親子でよく行く市内の施設や遊び場はどこですか？

大村さん 自宅から近いこともあり市民交流センター2階のふれあい広場です。

— 子育てに関する施策で、市にお願いしたいことはありますか？

大村さん 施策に関してはとても満足していますが、ママ友たちと話になるのが、市内に沢山の公園はあるが、駐車場がある公園が少なく、岩泉や山田の施設に遊びに行っているのが、大きな公園が欲しいです。

— これから成長する子供にとって、宮古市がどんな場所であってほしいですか？

大村さん 宮古のよいところを残しながら、働く場所を増やしてほしいです。そして将来宮古に子どもたちが残ってくれたら嬉しいですね。

小百合幼稚園

— 今回の無償化について、どのような感想をお持ちですか？

加藤園長 ご家庭にとってはよかったと思いますが、行政も幼稚園側でも準備不足のまま施行されたことに不安があります。家庭の中で無償化となつて余裕が出たお金の使い道も考えたほうが良いと思います。

— 対象の保護者の反応はいかがですか？

加藤園長 10月16日、無償化についての説明会をしました。率直にうれし、助かる、よかった、との声が多くありました。

— 今回の無償化により入園を希望する児童が増加すると予想されます。受け入れをするにあたり、保育現場での問題、課題等がありますか？

加藤園長 希望する児童がいたとしても、今後も少子化により市内の児童も減ってくると思っています。受け入れるためには施設とサービスの充実が必要です。私立の幼稚園としては経営の不安も払しょくする事はできませんので、私立の幼稚園に対しても更に行政からの支援をしていただきたいと思っています。

園庭で元気よく遊ぶ児童達



大村 清さん、里美さん、律ちゃん（2才）

